



こんにちは♪ 夏休みが終わって学校が始まったとき、「行きたくないな」と思ったひとはいませんか？ いま生きているのがつらいと感じているひともいるかもしれません。そんなひとにオススメのサイトを紹介。「かくれてしまえばいいのです」。あのヨシタケシンスケさんが自殺防止に取り組むNPO法人とつくった「生きるのがしんどい あなたのためのWeb空間」です。辛い日常から抜け出すためのネット上の「かくれが」です。誰でも無料、匿名で利用できますので、とにかく試してみてください。超ネガティブ思考のヨシタケさんがつくったものなので、うんざりさせられるようなことはなにもなく（「ガンバレ！」とか）、そこでぶらぶらしているだけで心が軽くなります。ここでのんびりしているときに、笛吹高校にも似たような場所があることに気づきました。そう、図書館です！ 図書館ではただそこにいただけでいいのです。学校のなかの「かくれが」。必要なひとは、誰でも利用できます。

オススメ本紹介

『君はどう生きるか』 こうかみしゅうし 鴻上尚史

「どう生きていけばいいんだろう どうすれば息苦しくなくなるんだろう そんな君の問いに、この本はまっすぐ答えてくれる」（ブレイディみかこ）。『君たちはどう生きるか』ではなく「君は」なのは、「君たち」と一括りに呼びかけることができないほど一人ひとりが違っているから。多様性。日本中が紅白歌合戦を観て、おなじものに夢中になっていたあのころとは、まったく変わってしまったからです。多様性の時代において「どう生きるのか」をアドバイスした本です。日本人が「対話」が下手なのは、ジャンケンがあるから。被災地に送られてくるものでいちばん困るものは、折り鶴。相手に同情する「シンパシー」じゃなくて、相手の立場に立てる能力「エンパシー」。コミュニケーションは、スポーツと同じで、やればやるだけ上達する。何のために大学へ行くのか、それは「ちゃんと途方に暮れるため」…。どうということなのかは、実際に本を読んでみてください。「君は何のために生きてる？」「君の生きる目的は何？」

『月め走いや、馬め走い』 うんまは 豊永浩平

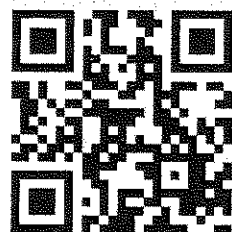
修学旅行に行くまえにぜひ読んでもらいたい本！ 1冊まるごと沖縄について書かれた小説です。話者を替えながら順番に沖縄自身が語り続けるような小説。たとえば、「あの太陽の光」という言葉をスイッチにして話者が入れ替わります。沖縄戦の後半の日本兵士が死の間際に崇めた「あの太陽の光」は、前髪が汗でくっついてベタベタになるからマジウザい「あの太陽の光」になり、そこから話者はいろんなことにムカついている現代の女子高生になるのです。沖縄という多重人格者の人格が次々と入れ替わっていくかのように。先祖の霊が還ってくるお盆に、沖縄に住むクォーターの小学生・こうちゃんが、「海に行っちゃあダメだ」と言われているのに、大好きなかなちゃんに告白しようとして海に行くと、そこに78年前に戦死した日本兵の亡霊が現れるのだった。日本兵は米兵に発見されるのを怖れて、泣き叫ぶ赤ちゃんとそのお母さんを殺していた…。読むことも難しいなんだかよくわからないタイトルは、「馬さながらに歳月は駆け抜けてしまうのだから、時をだいじにすべし、けれど苦悩は結局なくなるものとしてほうってしまいなさい！」という意味のオバアの言葉です。「かーなーはこうちゃんのあたたかさを手さぐりします。そうしていると、かーなーたちがここにいるささとすてきさが少しわかったような、そんな気がしました」。



<https://kakurega.lifelink.or.jp/>

or

「カクレガ ヨシタケ」で検索



『ちょっぴりながもちするそうです』 ヨシタケシンスケ

「消しゴムを立てておくと、『なんとかなるんじゃないかしら』という気持ちが、ちょっぴりながもちするそうです。『あつかったら ぬげばいい』『かみはこんなに くちゃくちゃだけど』に続く、「心がちょっぴり軽くなる絵本」シリーズ、第3弾！ テーマは「創作おまじない」。「～だそうです」というかたちで怪しげな（信じなくてもいい）おまじないが語られます。「たったひとつの真実は」「この世で見つけなくてもいいそうです」「このころの中には丸い庭があって」「何を置いても似合うそうです」

『雷と走る』 千早 茜

直木賞受賞作『しろがねの葉』でネクストフェイズに達した千早さんの好評『グリフィスの傷』に続く新刊！ 小学1～4年をアフリカ・ザンビアで過ごした体験が色濃く反映した作品。「ずっと愛がわからない。示し方も、受け取り方も、わからない。わからないのに、あれが、あれこそが愛だったと確信している。虎は、私が所有した唯一の愛だった」。虎。ライオンに匹敵するほど強くなってほしくて、まどかがつけた犬の名前。父親の仕事の都合で、南国の高級住宅街の駐在員用のお屋敷でまどかの一家は暮らすことになった。治安が悪く、広い広い庭のあるこの家には防犯のために犬が必須だった。ガードドッグと呼ばれる番犬。引っ越してすぐに犬を買いに行った。十匹近くの仔犬が母犬を覆い尽くしていた。弟は元気な2匹を、父は賢そうな1匹を選んだ。もう1匹くらいいてもいいと言われ、いい犬ばかり選んで申し訳なく父が思っているとき、まどかの目にいちばん小さな犬が目についた。「あの子、弱ってるの？」まどかはもらい手がつかないようなその子を選んだ。「よいことをしましたね」と言われた。虎と名づけた。犬たちは首輪もつけられず、鎖につながれることもなかった。ローデシアの原住民が飼っていた獵犬とヨーロッパからの入植者が連れてきた警備用の大型犬をかけ合わせて生まれたとても強い犬種。現地の人々は、背中に蛇を負う犬と呼んでいた。戦士の魂を持つ生き物だと。犬たちはたちまち大きくなった。弱々しく頼りなかった虎も。

『ぼくが生きてる、ふたつの世界』 五十嵐 大

「いつも、ひとりぼっちだった」。耳の聴こえない両親の元に生まれ育てられた耳の聴こえる子どものことを「コード」というそうです。自身がコードである著者の書いた名作『ろうの両親から生まれたぼくが聴こえる世界と聴こえない世界を行き来して考えた30のこと』が吉沢亮主演で映画化され、それに合わせてタイトルが変更され文庫化されました。コードであるということがどういうことであるのか、とにかく「知ってもらいたくて」書かれた本。コードである自分を振り返ることは、大好きなのにずっと傷つけてばかりだった母との過去と向かい合うことでもありました。生まれつき耳が聴こえない母は、音を知らないため、日本語をうまく発音できない。でも、まったく発音ができないわけではない。小学3年生のとき、初めて友だちを家に連れてきた。「よく来たね」と懸命に母が言った言葉は、「おういあね」というくぐもった音にしかならなかった。友だちは「お前の母ちゃん、喋り方変だよな？」と笑った…。



☆『地球博物学大図鑑 新訂版』 スミソニアン協会

「EVERYTHING ON EARTH」「この惑星に存在する輝かしい『宝物』の集大成であり、生命のたぐいなき多様性を謳歌できる究極の一冊である」。鉱物、岩石、化石から微生物、菌類（キノコも充実！）、植物、動物に至る5千種以上が、美麗写真・イラストで紹介されています。地球の豊かさが集約されているかのような本です。生物多様性を理解したいなら、この本をめくれば一目瞭然です。せーやさんがもしお大尽だったらすべての小中学高校生に1冊ずつプレゼントしたいと願い、司書人生初の☆2つをつけ大絶賛したすばらしい本が、12年の歳月を経てニュー・エディションに生まれ変わりました。この12年のあいだに、何十もの新種が確認され、新たな発見がありました。なんと2370種もの内容がアップデートされています。この本オリジナルの「生命の樹」（生物の系統樹）も大幅に改変されています。大きな写真が売りで、メキシコオオツチグモやマダコやオオヒキガエルの巨大写真など、あまりの迫力に苦手なひとは失神必至だったのですが、新訂版ではアフリカゾウやウガンダキリン、ホフマンナマケモノやコモンスズル、カリフォルニアアシカなど、愛らしい動物たちが大きく採りあげられています。

『くまとやまねこ』 湯本香樹実 酒井駒子 え

目黒蓮主演のドラマ『夏のはじまり』で大切な役割を果たす絵本として登場し話題に。亡くなってしまう水季が娘の海にずっと読み聞かせていた絵本です。実は、あの「MOE絵本屋さん大賞」の記念すべき第1回受賞作品でもあります。『夏の庭』の湯本香樹実さんと『金曜日の砂糖ちゃん』の酒井駒子さんとの夢のコラボ。最愛の人の死とどう向かい合うかが描かれた絵本です。「ある朝、くまはなっていました。なかよしのことりが、しんでしまったのです」。くまは箱にことりを入れ、花をいっぱいつめて持ち歩きます。ところが、うさぎたちに「つらいだろうけど、わすれなくちゃ」と言われて、くまは閉じこもります。あるとても晴れた日、外に出たくまはやまねこと出会い…。

◎夏休み貸し出しの本を返しにきてください！

————「かくれが」をつくってくれ、あんなに絵本を出しているヨシタケさんも、実は「生きづらさを抱える当事者の1人」でうつ病なのだそうです。だから、大丈夫！ きっとなんとかなるものだから。では、図書館で。「かくれが」利用、大歓迎♪

